

児童生徒の家庭学習の充実に向けて

全国学力・学習状況調査結果チャート（８，９ページ参照）に見られるとおり，児童生徒質問紙における「学習習慣」の領域と学校質問紙における「家庭学習」の領域については，小中学校ともに全国を下回っている。継続した課題であることから，調査結果に基づいて検証し，児童生徒の学習習慣の確立や，家庭学習を充実させるための学校の取組について，一層の改善を図っていく必要がある。

（１）児童生徒質問紙調査から（平成２７年度調査結果については，８１ページ参照）

家庭における学習習慣の定着が不十分であることがわかる。児童生徒ともに，宿題をする割合は高いが，計画的な勉強や予習・復習をする割合は低く，学習態度が受動的であることがうかがえる。宿題とともに予習・復習のバランスのとれた，自主的・計画的な学習態度を育成する必要がある。

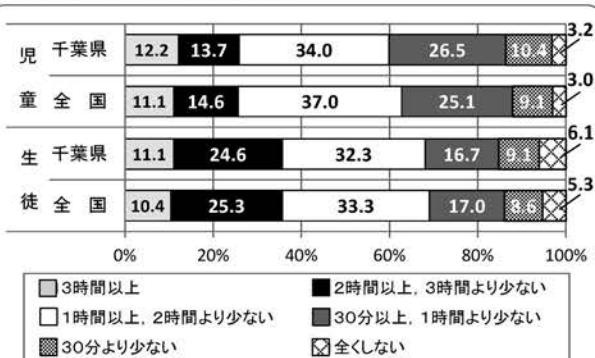
学習時間は全国に比べて少ない状況である。長時間勉強する児童生徒の割合は全国と比べてやや上回るが，ほとんどしない割合もやや上回る。また，ゲームや携帯電話等を長時間利用する児童生徒が多く，学習時間の確保に影響を及ぼしていることが考えられる。起床・就寝時刻や携帯電話等の使用法も含め，家庭における時間の有効な活用について工夫・改善を図る必要がある。

◆学習時間について

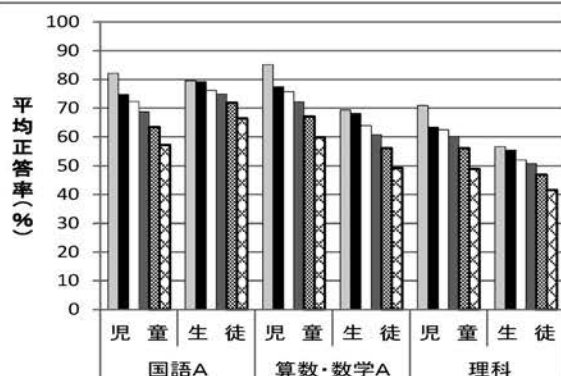
13

学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

【平成２７年度調査結果】



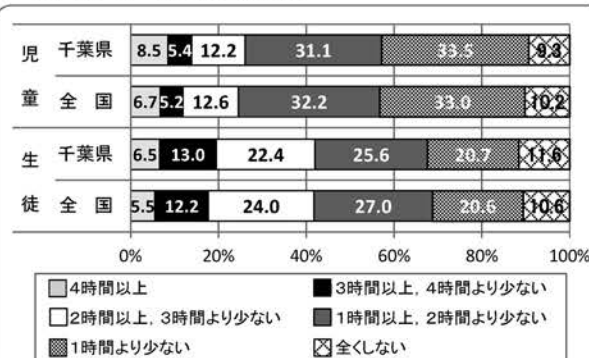
【回答結果と正答率の関連】



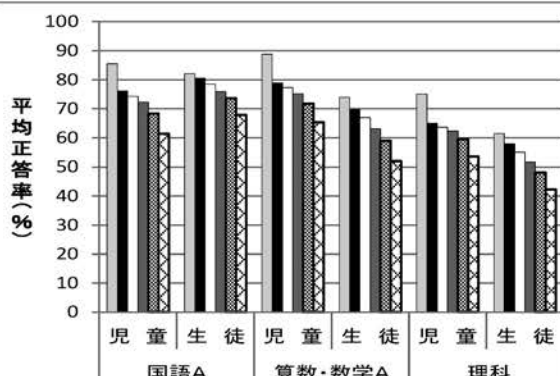
14

土曜日や日曜日など学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

【平成２７年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】

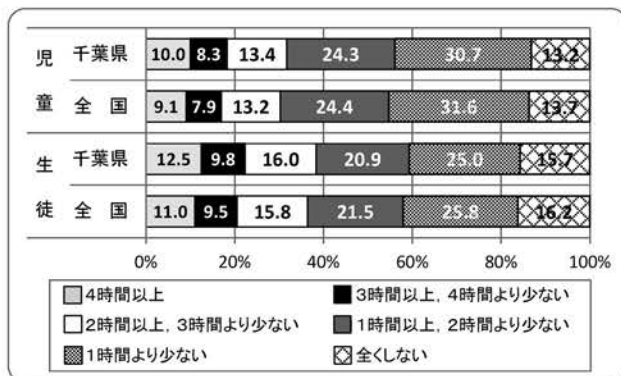


「学校の授業時間以外に，１時間以上勉強する」割合について，「普段（月～金曜日）」と「土曜日や日曜日など学校が休みの日」とを比べると，児童は59.9%，57.2%，生徒は68.0%，68.7%で，児童は休みの日が普段を下回り，生徒は同程度である。普段「全くしない」割合について，児童と生徒とを比べると，生徒が児童の約２倍になっている。また，休みの日に「全くしない」割合は，児童生徒ともに約１割となっている。

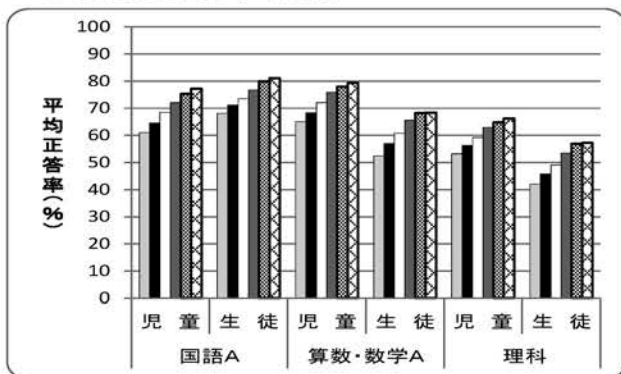
◆生活習慣について

11	普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか
----	---

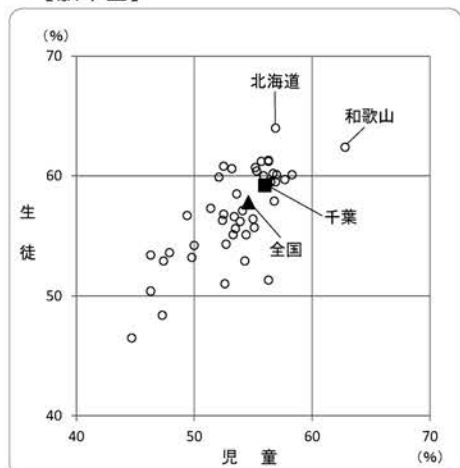
【平成27年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】

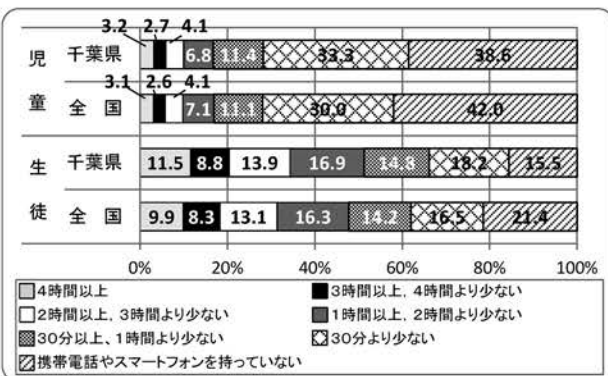


【散布図】

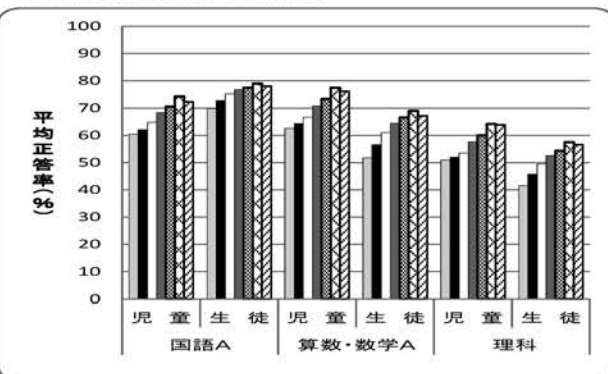


12	普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）
----	---

【平成27年度調査結果】

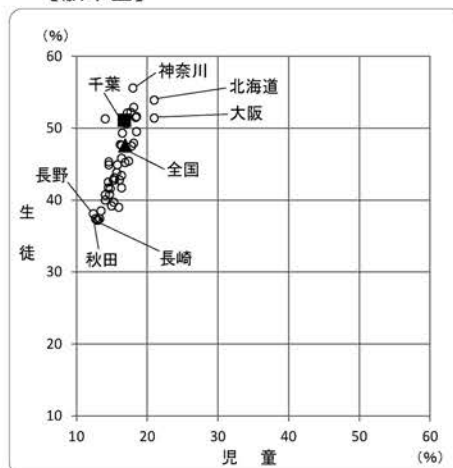


【回答結果と正答率の関連】



※「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した割合を除いて作成している。

【散布図】



「1時間以上テレビゲームをする」割合は，児童は全国と同程度であり，生徒は全国と比べてやや高く，全国の中でも上位に位置している。「1時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する」割合についても同様の状況である。携帯電話やスマートフォンについては，児童生徒ともに全国よりも所持率が高く，生徒の使用時間は全国よりも長い傾向が見られる。また全国と同様に，児童よりも生徒の方が所持率が高く，使用時間が長くなっている状況がうかがえる。テレビゲームをする時間や携帯電話等を使用する時間が長い児童生徒ほど，正答率が低い傾向にある。

(2) 学校質問紙調査から

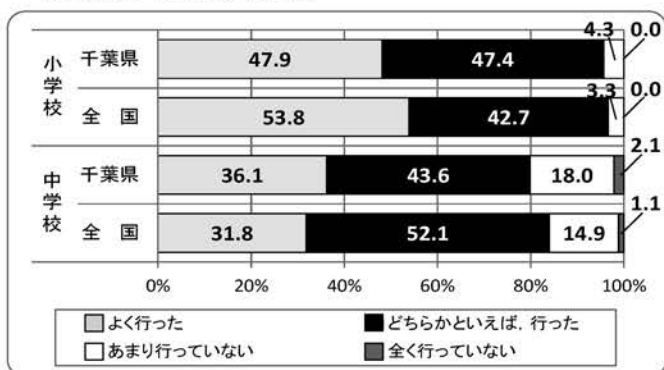
児童生徒が家庭で「宿題」をしている割合が高いという実態を踏まえると、宿題の与え方、内容や質についての工夫改善は重要課題である。「宿題の与え方における教職員の共通理解」が全国を下回る状況が続いていることから、宿題については学級や教科担任に任されている現状が推測され、学校全体としての基本方針に基づいた校内体制を整えることが喫緊の課題と言える。宿題の内容については、知識・理解に関わるものだけでなく、「調べたり文章を書いたりする」といった児童生徒の思考や表現活動を促すものを取り入れることも大切となってくる。

児童生徒の自主的な学習態度を育成するという観点から、学校としての働きかけについてより一層の改善を図っていく必要がある。「家庭学習を促すような働きかけ」を行った割合は、小中学校ともに増加傾向を示しており、さらに働きかけの内容を工夫しながらそれを継続することが重要である。また、「学習の仕方」を身に付けることは、能動的に学習を進める上での大切な条件である。児童生徒に「家庭での学習方法を具体的に教える」ことは、それに直結する重要なことがらであり、学校としての積極的な取組が必要である。

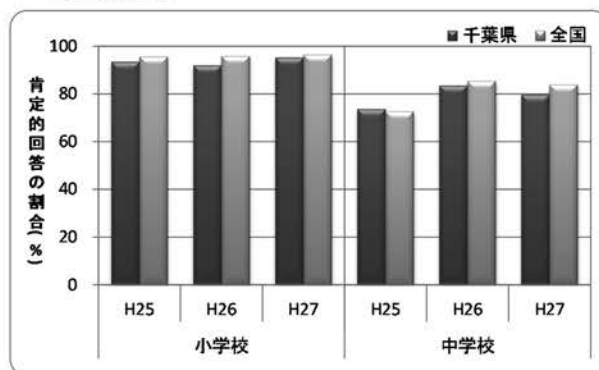
◆家庭学習に関わる学校の取組について

小 93 前年度までに、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／算数・数学共通）
中 91

【平成27年度調査結果】



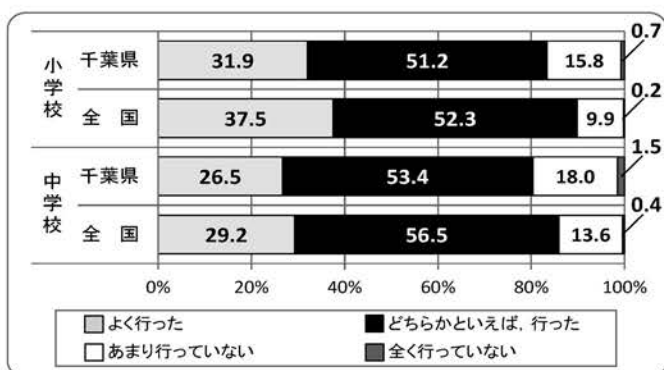
【経年変化】



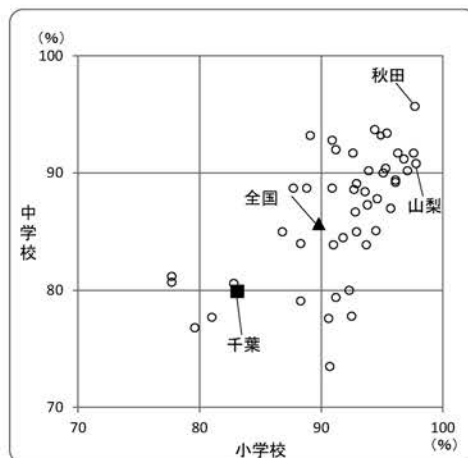
※H25 は算数・数学についての調査

小 96 前年度までに、家庭学習の取組として、児童・生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語／算数・数学共通）
中 94

【平成27年度調査結果】



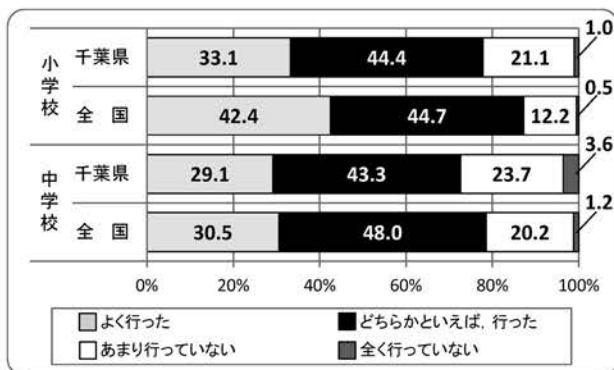
【散布図】



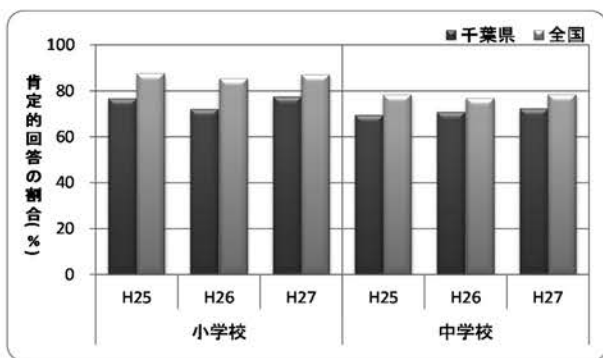
保護者に対して児童生徒の「家庭学習を促す」働きかけについて、肯定的な回答の割合は、小中学校ともに全国と比べてやや低い。否定的な回答の割合は、中学校は小学校の4倍以上となっている。また、児童生徒に「家庭での学習方法等を具体的に挙げながら教える」ことについては、小中学校ともに全国と比べて低く、全国の中で下位に位置している。

小 94 中 92	前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／算数・数学共通）
--------------	---

【平成27年度調査結果】

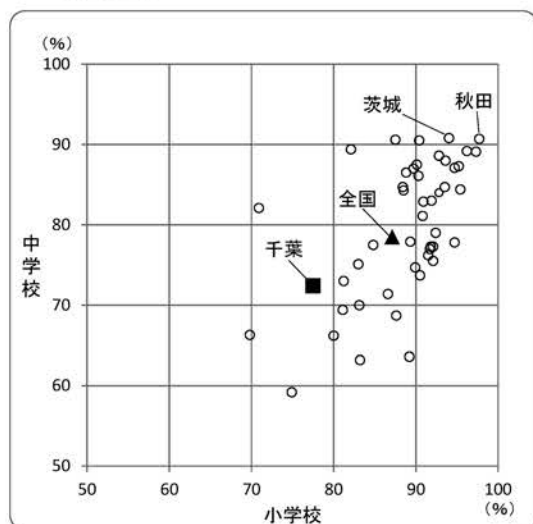


【経年変化】



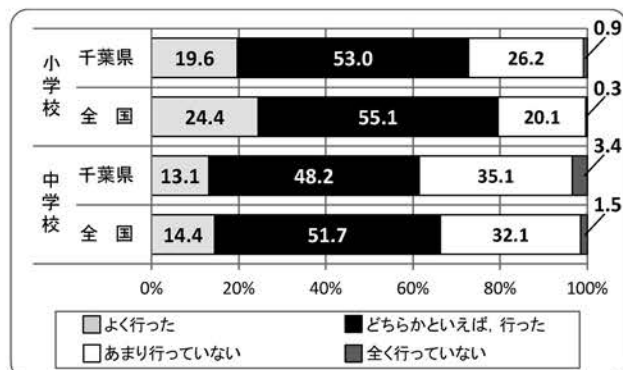
※H25 は算数・数学についての調査

【散布図】

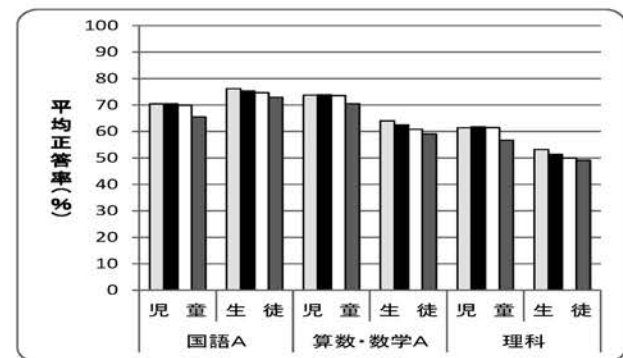


小 95 中 93	前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数・数学共通）
--------------	--

【平成27年度調査結果】

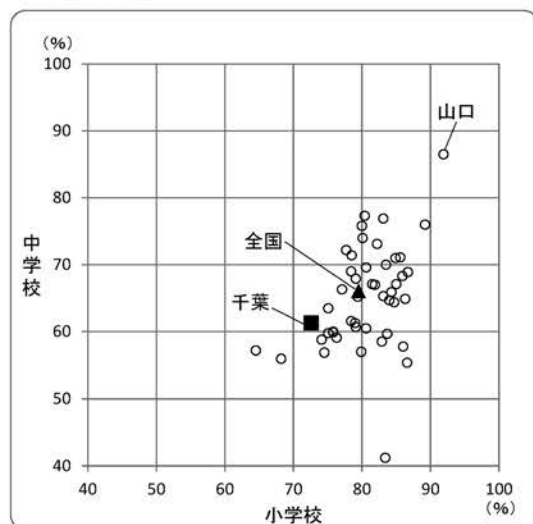


【回答結果と正答率の関連】



※選択肢ごとの学校の平均正答率を示している

【散布図】



「家庭学習について教職員の共通理解を図る」ことについて、肯定的な回答の割合は、小中学校ともに、全国との差は小さくなる傾向にあるものの下回っている。特に、小学校は全国の中でも下位に位置している。

「調べたり、文章を書いたりする宿題を与える」ことについて、肯定的な回答の割合は、小中学校ともに、全国を下回っている。特に、小学校は全国の中でも下位に位置している。また、肯定的な回答した学校の児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

主体的・協働的な学習の充実に向けて

主体的・協働的な学習（いわゆるアクティブ・ラーニング）によく取り組んだと回答した児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られた。課題を発見して情報を集め、整理し、文章にしたり発表したりする学習、話し合う活動や教え合い学び合う学習に一定の効果があつたと見られる。

話し合う活動については、児童生徒と学校との間に認識の差が見られた。話し合い活動による学力向上について、児童生徒の実態を見つめるとともに、評価規準の設定と指導法について更に検証改善を進める必要がある。

各学校がアクティブ・ラーニングの充実を図る際には、育てたい能力を明確にした上で、児童生徒に活動の意味を説明したり適切に評価するなどして、より多くの児童生徒が達成感を感じ、学習意欲を持続的に向上していけるように留意することが重要である。

(1) 児童生徒質問紙から

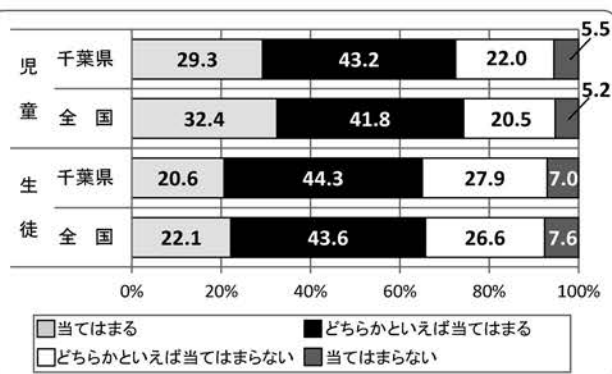
授業や総合的な学習の時間に、自ら課題を立て、情報を集め、整理して発表する学習に取り組んでいると感じている児童生徒の割合について、全国との大きな差は見られなかった。また、話し合う活動によって、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている児童生徒の割合についても、全国との大きな差は見られなかった。

それぞれの項目で肯定的な回答をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られることから、小中学校ともに、より多くの児童生徒が主体的・協働的な学習の中で達成感を得られるような授業を展開することが重要である。

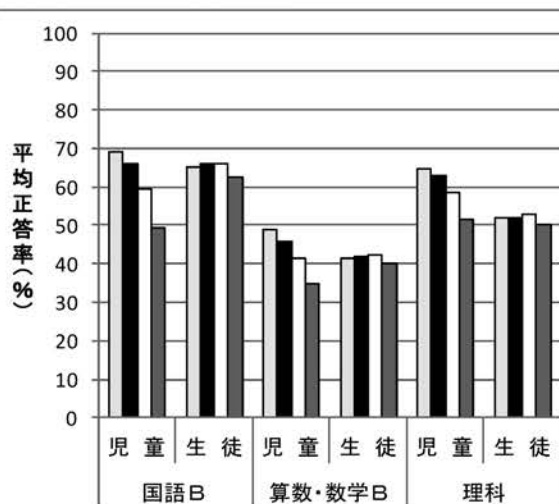
40

授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習に取り組んでいたと思う

【平成27年度調査結果】

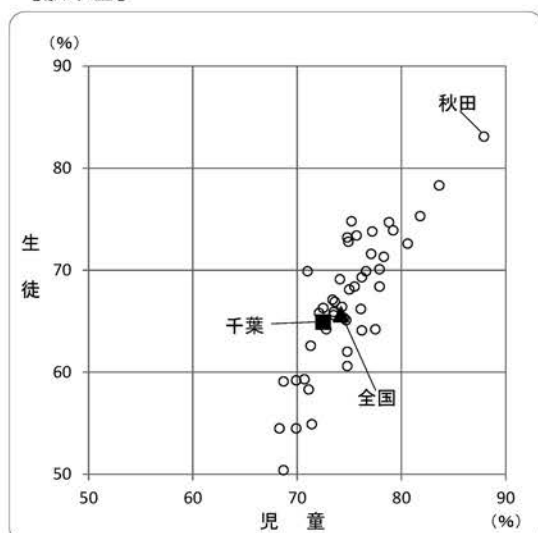


【回答結果と正答率の関連】



※選択肢ごとの学校の平均正答率を示している

【散布図】



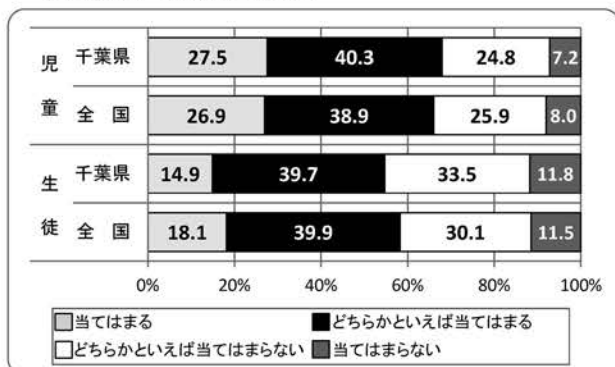
肯定的回答の割合は、児童は全国と比べてやや低く、生徒は同程度である。

授業において、自分たちで課題を立てて主体的に学習していると感じている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。特に、児童はその傾向が強く表れている。

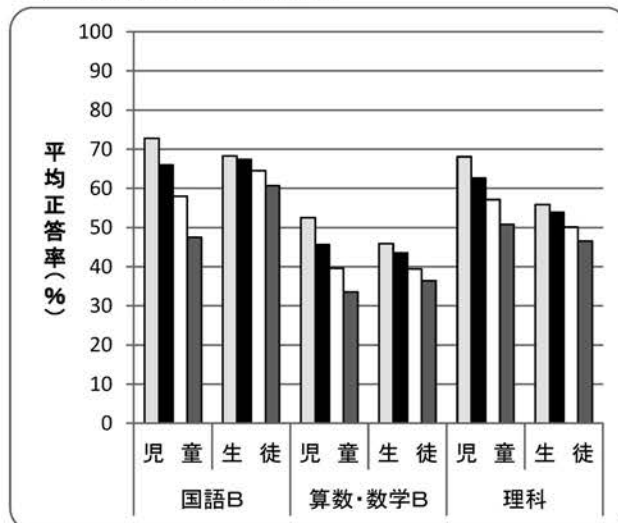
37

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

【平成27年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



※選択肢ごとの学校の平均正答率を示している

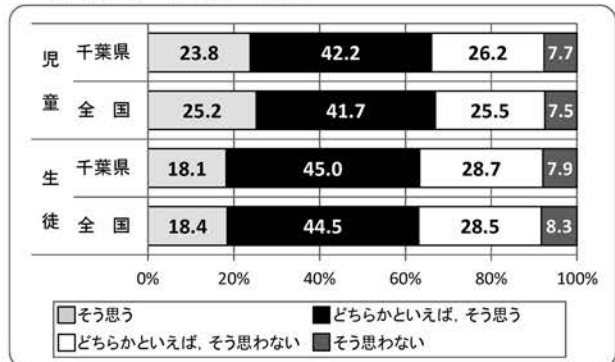
肯定的回答の割合は、児童は全国と比べてやや高く、生徒はやや低い。「当てはまる」と回答した割合について、全国では生徒が児童の3分の2程度であるのに比べ、千葉県では半分強という状況であり、児童と生徒の差が大きい。

「総合的な学習の時間」において、自分で課題を立てて主体的に学習していると感じている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。特に、児童はその傾向が強く表れている。

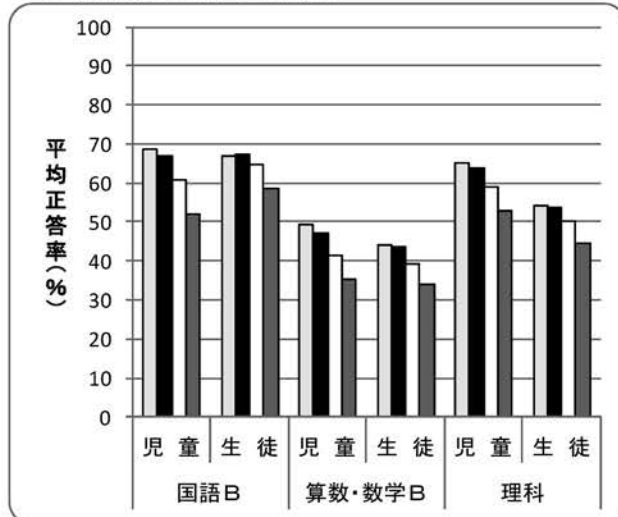
46

学級の友達・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる

【平成27年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



※選択肢ごとの学校の平均正答率を示している

肯定的回答の割合は、児童生徒ともに全国と同程度である。話し合う活動により考えを深めたり広げたりすることができると感じている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。特に、児童はその傾向が強く表れている。

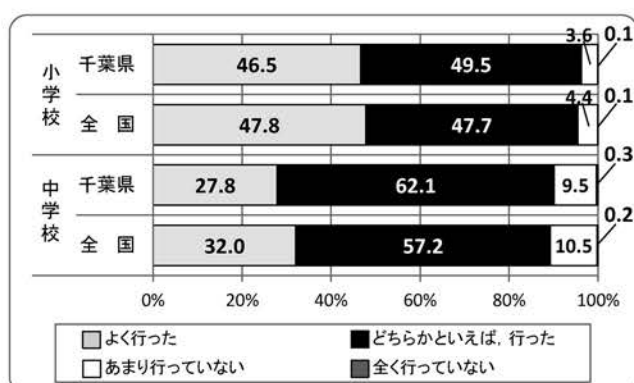
(2) 学校質問紙から

学級やグループで話し合う活動や、コンピュータ等の情報通信技術を活用して子供同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行った学校の割合について、全国との大きな差は見られなかった。

話し合い活動や協働学習、課題発見・解決型の学習指導には一定の効果が見られることから、各学校は、これらの活動のあり方について検証を進め、各単元の中で意図的・計画的に配置するなど、具体的な取組を進める必要がある。その際、単に活動の場面や時間を増やすのではなく、評価規準を適切に設定して児童生徒の学力及び学習意欲の持続的な向上を図ることや、家庭学習との関係を見直すなど、活動の質の向上を図ることも重要である。

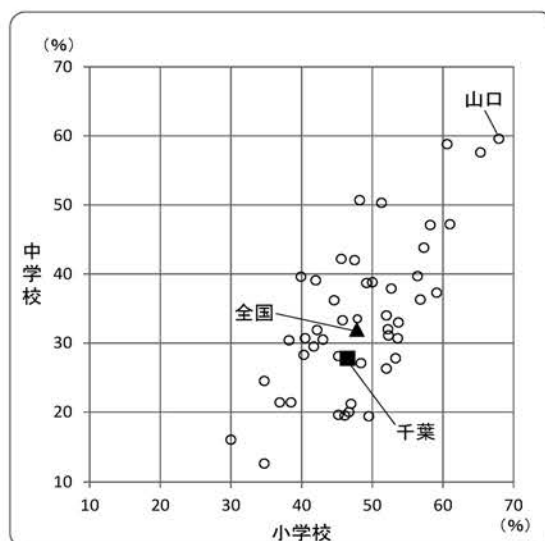
35 前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか

【平成27年度調査結果】



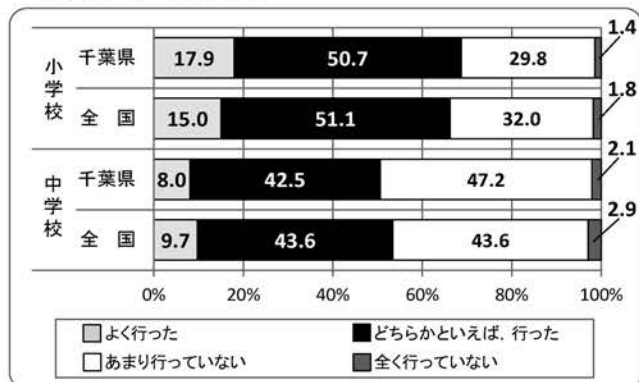
肯定的な回答の割合は、小中学校ともに同程度である。「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校は全国よりやや低く、中学校は低い。

【散布図】



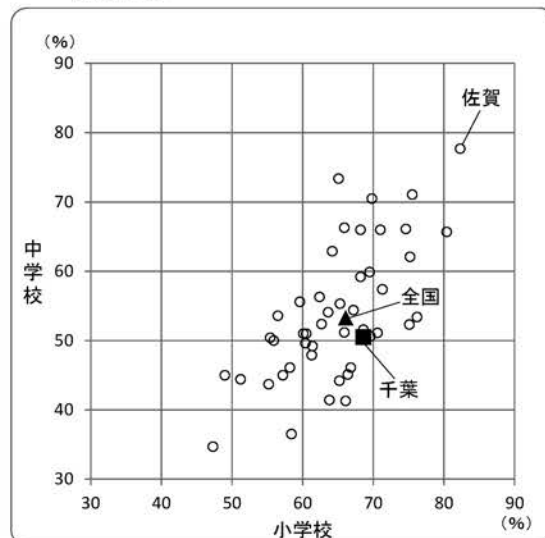
46 前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか

【平成27年度調査】



肯定的な回答の割合は、小学校で全国よりやや高く、中学校ではやや低い。「よく行った」割合は、中学校は小学校の半分以下である。

【散布図】



(3) 児童生徒質問紙と学校質問紙との関係

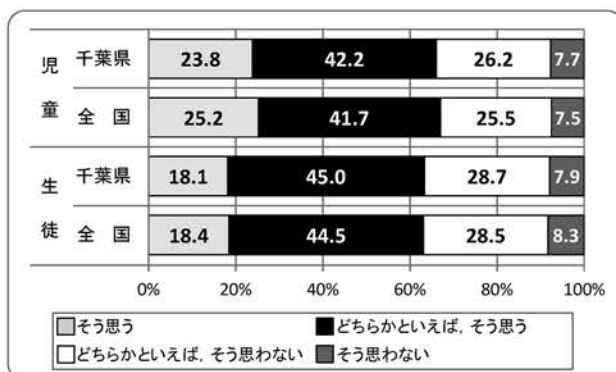
話し合う活動について、児童生徒と学校との間に認識の差が見られる。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して、「そう思わない」と回答している学校の割合は約 1%であるのに対して、児童生徒の割合が約 8%となっている。学校は、より多くの児童生徒が自分の考えを深めたり、広げたりする実感が持てるように指導していくことが大切である。

また、「そう思う」と回答している児童の割合が 20%台、生徒の割合が 20%近くであるのに対して、学校の割合が 10%未満となっている。学校は、児童生徒の学びの実態を見つめ直すとともに、話し合う活動を通じてどのような力をつけさせたいのか（評価規準）を適切に設定し、より多くの児童生徒がより深く広い学びを実感できるように指導していくことが必要である。

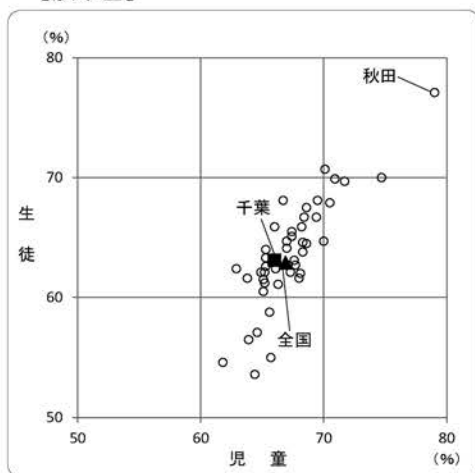
■児童生徒質問紙

46	学級の友達・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
----	---

【平成27年度調査結果】



【散布図】



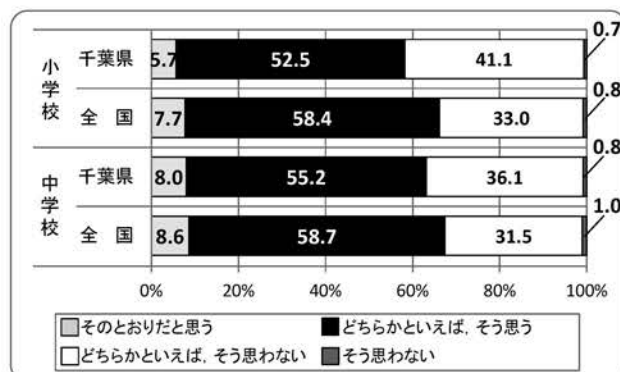
肯定的回答の割合は、児童生徒ともに全国と同程度である。

「そう思う」の割合は、児童は全国よりやや低く、生徒は全国と同程度である。

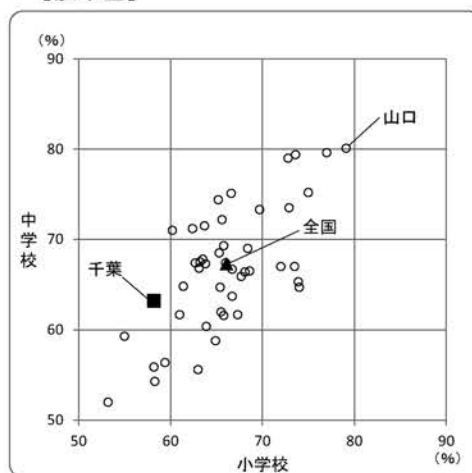
□学校質問紙

21	児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
----	--

【平成27年度調査結果】



【散布図】



肯定的回答の割合は、小学校は全国より低く、中学校はやや低い。小学校は全国の中で下位に位置している。

「そう思う」の割合は、小学校は全国よりやや低く、中学校は同程度である。

指導改善サイクルの確立を目指して

小中学校ともに全国学力・学習状況調査の結果の活用に関する項目に課題がみられた。「自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有した」「学校全体で教育活動を改善するために活用した」について、「よく行った」と回答した学校の割合が全国を大きく下回った。

全国的に見ても、調査結果を分析し、自校の課題を明確にして指導改善に役立てている学校の児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られる。

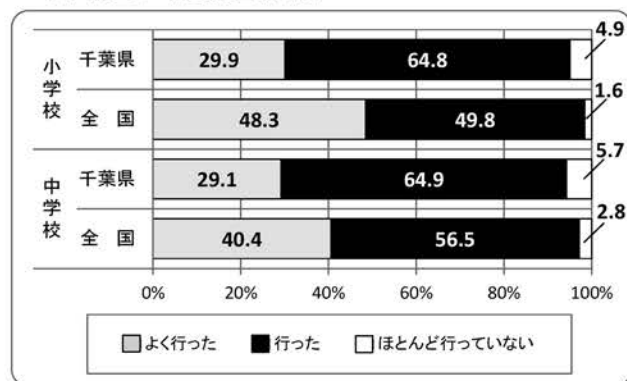
各学校において、調査結果に基づいて成果と課題を明らかにするとともに、指導改善の内容について、全職員が一体となり、家庭・地域と連携して、組織的・計画的に取り組み、指導改善サイクルを確立させることが必要である。

学校質問紙調査から

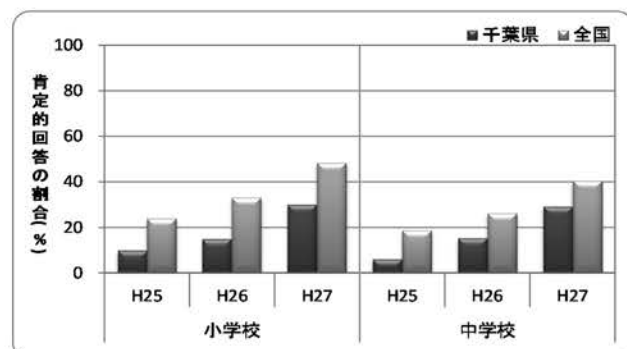
質問番号	質問事項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
50	前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有した	94.7	-3.4	94.0	-2.9
51	前年度の全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	90.7	-5.1 ▼	89.5	-3.7
52	前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含みます)	71.1	-16.9 ▼	70.1	-13.8 ▼
53	前年度の全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った	72.3	-15.1 ▼	68.0	-12.5 ▼
54	全国学力・学習状況調査を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	83.4	-8.5 ▼	75.5	-12.4 ▼

50 前年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか

【平成27年度調査結果】

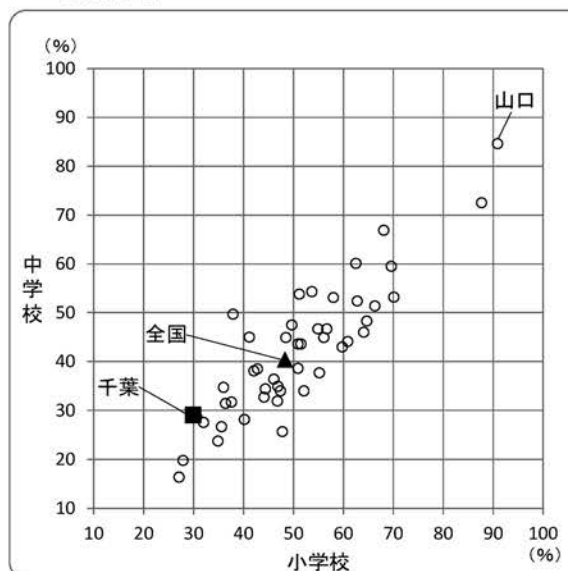


【経年変化】



※「よく行った」と回答した割合

【散布図】

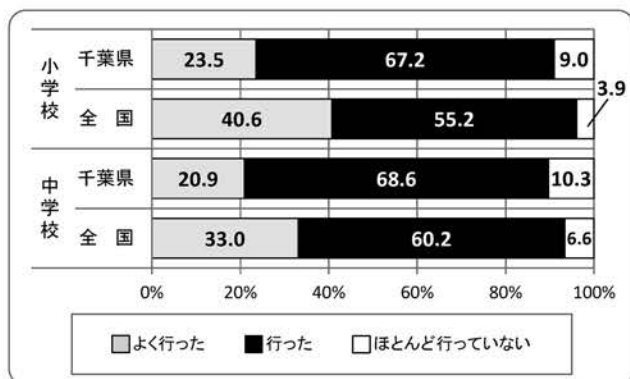


「よく行った」と回答した学校の割合は、小中学校ともに全国より著しく低い。小中学校ともに全国の中で下位に位置している。「ほとんど行っていない」割合について、小学校の4.9%は全国で最も高い。

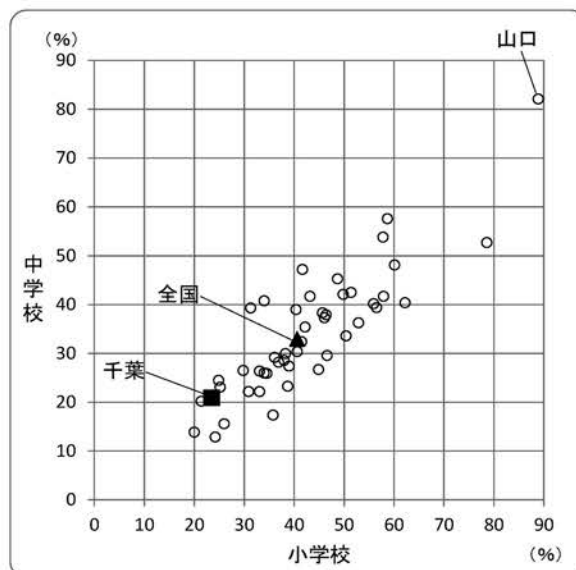
51

前年度の全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

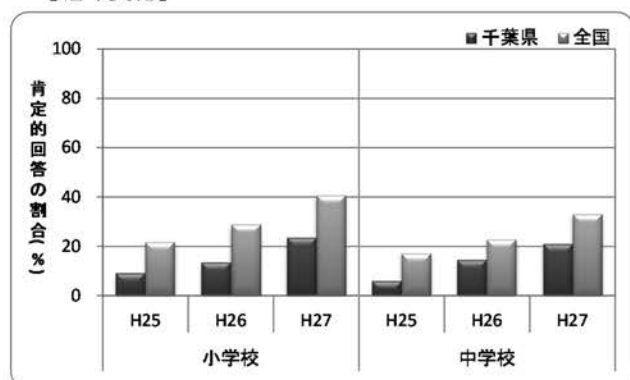
【平成27年度調査結果】



【散布図】



【経年変化】



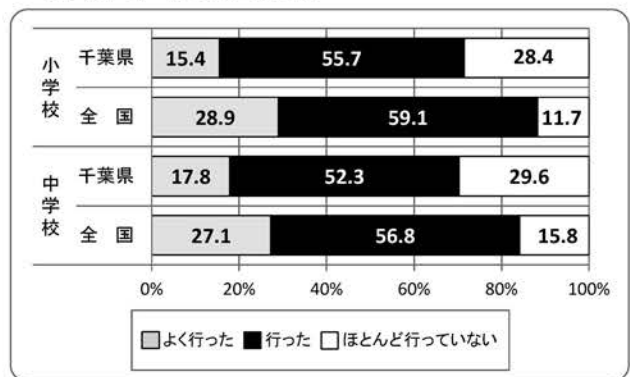
※「よく行った」と回答した割合

「よく行った」と回答した学校の割合は、小中学校ともに全国より著しく低い。小学校中学校ともに全国の中で下位に位置している。「ほとんど行っていない」割合は、小中学校ともに約10%で、全国より著しく高い。

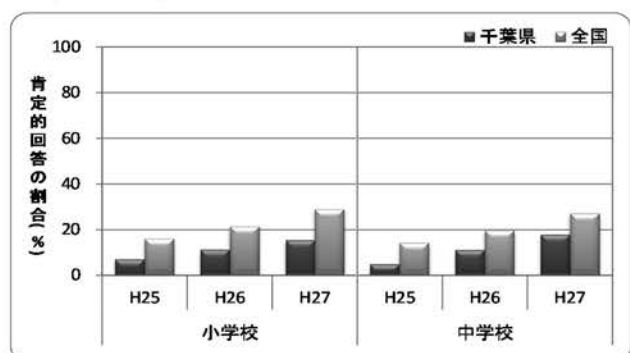
52

前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか

【平成27年度調査結果】

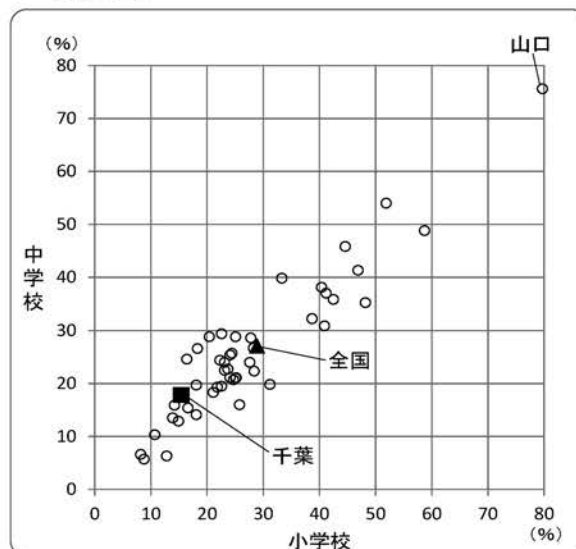


【経年変化】



※「よく行った」と回答した割合

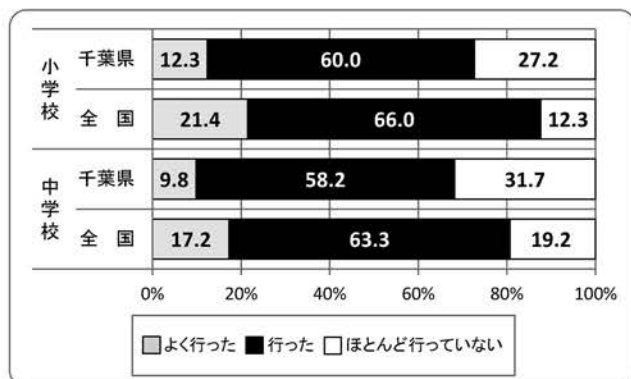
【散布図】



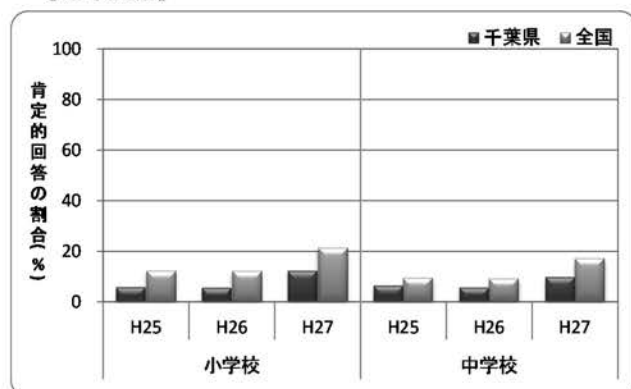
「よく行った」と回答した学校の割合は、小中学校ともに全国より低く、小中学校ともに全国の中で下位に位置している。「ほとんど行っていない」割合は、小中学校ともに約30%で、全国より著しく高い。

前年度の全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか

【平成27年度調査結果】

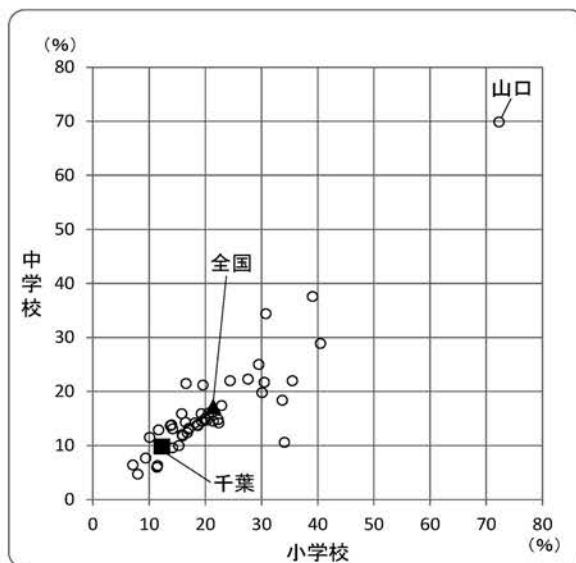


【経年変化】



※「よく行った」と回答した割合

【散布図】



「よく行った」と回答した学校の割合は、小中学校ともに全国より低く、小中学校ともに全国の中で下位に位置している。「ほとんど行っていない」割合は、小中学校ともに約30%で、全国より著しく高い。